



# 平成三十年度 定期総会開催

二松學舎大学

# 父母会報

平成5年5月10日創刊  
平成30年7月31日発行  
(第101号)

二松學舎大学父母会  
(本部・事務局)  
東京都千代田区三番町6番地16  
二松學舎大学学生支援課

題字は  
故 観山貞広堂吉先生書

平成三十年五月二十六日  
(土) 午後一時三十分、九  
段一号館中洲記念講堂にお  
いて、平成三十年度二松學  
舎大学父母会定期総会が開  
催された。

総会に先立ち、二松學舎  
大学国際政治経済学部准教  
授小久保欣哉先生による  
「なぜ、いま経営学なのか  
〜都心で学ぶ経営実務〜」  
と題した講演会が行われた。  
午後二時四十分、加藤典  
子氏の司会により総会が開  
会され、南條麻里父母会長、  
菅原淳子学長がそれぞれ挨拶  
をした後、中澤総議長に  
より議事に入った。



第一号議案の平成二十九年度事業  
報告並びに決算については、審議の  
結果、原案どおり承認された。

第二号議案の平成三十年度役員選  
出は、会長に宮脇正裕氏、続いて会  
計監査に白根真弓氏と田中清美氏が  
決定した。

第三号議案の平成三十年度事業計  
画並びに予算が審議され、それぞれ  
原案どおり承認された。



議事終了後、平成二十九年度で役  
員を退任した南條麻里氏、酒井継美  
氏、結城文子氏、久田恵美氏の四名  
に菅原学長から感謝状と記念品が贈  
呈され、総会終了した。

午後三時三十分から、会場を九段  
一号館十三階のラウンジに移動し、  
父母と教職員の懇親会が開催された。



### ※父母会活動

「平成三十年度父母会スタート!!」

父母会会長 宮脇正裕

二松學舎大学父母会会員の皆様には、日頃より父母会活動へのご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。平成三十年五月の定期総会において、①平成二十九年度の事業報告並び決算、②平成三十年役員、③平成三十年度事業計画並びに予算、以上三件について承認を頂き三十年度父母会活動を開始しました。

父母会は、今年で二十五年目を迎えますが、先輩方が築いてこられた『学生の為に』を基本理念として、『学校との連携』及び『会員相互の親睦』を重視して本会を運営していききたいと思えます。本年度の主要事業について簡単に説明します。①父母と学校との連携強化のため『地区別父母懇談会』を八か所で行います。お子様の就学状況や就職活動など色々な知りたいことについてご相談くだ

さい。②学生のスキルアップの助として『成長支援型奨学金』を行います。将来役立つ資格の取得や、就職活動の結果に応じて奨学金を支給します。ご家庭でもお子様のやる気スイッチを押していただければ幸いです。③三月十四日にホテルグランドパレスで開催する『卒業記念パーティー』④食生活が乱れがちな学生生活の改善の一助として学食の朝食を一〇〇円でとれる『一〇〇円朝食』⑤学園祭での無料休憩場所の提供(父母会喫茶室)⑥いろんな分野で頑張った学生の顕彰等の事業を行っております。詳細は総会資料をご参照ください。

会員皆様のご健勝・ご多幸と、子供たちの成長を祈念して年度当初のご挨拶とさせていただきます。一年間よろしくお願ひします。

### ※新役員紹介 ※役員に就任して

※田 中 み か

本年度から、父母会役員を務めさせていただきますこととなりました。

伝統ある二松學舎大学の父母会役員として携わることができ、大変光栄です。

微力ではありますが、これからの社会を担う学生の皆さんや、その学生をご指導くださる大学を応援する父母会活動に貢献していきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

※安 井 勝 代

本年度、父母会役員を務めさせていただきますことになりました。

先日の総会にて、大学にもこんな熱心な父母会活動がある事を初めて存じ上げた次第です。今回ご縁に恵まれて参加させていただくようになり光栄です。

二松學舎大学の諸先輩方の薫陶を受けて親子共々成長していけたらと思っております。皆様の足手まといにならない様に気をひきしめて努めて参ります。どうぞ宜しくお願ひ致します。

※千 澤 美千代

「学校との関わりもこれで終了!」と思つた高校の謝恩会から数ヶ月。ここから新たな四年間が始まるとは思つてもみませんでした。

大学の父母会というものは、全くの未経験ではございますが、全ての学生

が、安心して、充実した学生生活を送ることができるよう、何かお手伝いできればという思いであります。先輩方にご指導をいただきながら、一杯務めて参りますので、よろしくお願ひいたします。

※渡 邊 幹 雄

四月に息子が入学し、伝統ある本学とのご縁を頂きました。先の定期総会で初めて九段の校舎にお伺いする機会を得ましたが、上層階から見える都心独特の景観に改めてこの場所で学生生活を送ることへの羨ましさ、また貴重であることを実感しました。

この度会長様始め役員の皆様にお誘いを頂き父母会役員を務めさせて頂くことになりました。どうぞ宜しくお願ひ致します。

※細 谷 文 雄

本年度、父母会役員を務めさせて頂くことになりました細谷文雄です。当初は少し抵抗が有りましたが、学校と子供たちの話題を共有していくなかで、微力ながら皆さんと一緒に活動をしていききたいと思ひました。

二松學舎大学という歴史と伝統のある学舎で子供たちが楽しく充実した学生生活が送れるよう、陰ながらお手伝いをしてまいります。どうぞ、深いご理解、ご協力、ご鞭撻をお願い申し上げます。

## ご あ い さ つ

日本から  
飛び出してみよう

学 長 菅原 淳子

本学で提供している留学プログラムは、夏休みや春休みなど長期休業期間中に実施している3週間の短期海外語学研修と1年間の交換(派遣)留学の2種類です。いずれのプログラムも修得した単位は卒業に必要な単位として計上できます。短期

創立一四〇周年を機に文学部に都市文化デザイン学科、国際政治経済学部には国際経営学科が新たに開設され、この4月には783名の新生を迎えました。学びの領域が広がり学生の雰囲気にも少し変化が感じられます。新学科には海外でのフィールドワークという授業も用意されています。今回は本学の海外語学研修についてご紹介したいと思えます。

一方の交換(派遣)留学は派遣要件や選考がありますが、派遣留学生には奨学金が給付され、留学期間の本学への施設費は全額免除されます。留学中の1年間は本学の修業年限に算入されるため、休学せずに留学することが可能です。留学先とし

海外語学研修先は北京大学(中国)、ケンブリッジ大学ホマートンカレッジ(イギリス)、ダブリンシティ大学(アイルランド)、高麗大学(韓国)ですが、北京大学のみ本学学生用のプログラムで実施されています。語学研修のほか、現地ではさまざまなアクティビティが準備されており、「生きた語学を学びたい」「異文化に触れてみたい」という学生に大変好評です。

では北京大学、中国文化大学(台湾)、成均館大学(韓国)、バッキンガム大学(イギリス)のほか、今年度中にカナダ、オーストラリアの大学と協定締結の予定です。1年間の留学の間には語学のレベルに応じて語学学校だけではなく、正規の授業も履修できるようになっています。留学を経験した学生からは、「世界を知り、自分を知る体験をしたことで、価値観も変化しただけでなく、自分に自信がついた」という感想が寄せられています。グローバル化が進んでいる今日、できるだけ多くの学生に日本から海外へ飛び出してもらいたいと考えています。



## 「アクションプラン29」

理事長 水戸 英則

本学の長期ビジョン「N2020PLAN」の実行計画である「アクションプラン」(以下AP)の実行状況は、「AP年次報告書」(平成29年度)に取り纏め、大学ホームページに公表しております。

29年度APでは教育改革の一環として、近年の環境変化に対応した学部学科の改組を行い、29年4月から文学部の新学科「都市文化デザイン学科」が、本年4月から国際政治経済学部の新学科「国際政治経営学科」が、それぞれ新たにスタートしました。さらに両学部の入学定員をそれぞれ40名増員し、計80名の入学定員増員(600↓680名)を行いました。また、教育環境充実のため、九段4号館近隣の「九段光ビル」を取得、テ

ナントの入居していないフロアを教室や研究室へ改修し、本年4月から「九段5号館」として運用を開始しました。その他、漱石アンドロイドを活用し、漱石ゆかりの地や柏市にて地域貢献活動を積極的に行いました。これらの対応により、大学の志願者数は前年度比約2割増加、既往ピークに次ぐ数となりました。また、平成25年度から5年連続で文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業 タイプ1」教育の質転換型」に採択された他、「タイプ2」地域連携型」にも初めて採択され、補助金の加算措置を受けることができました。

本プランでは育成する人材像を、旧プランを踏襲しつつ2030年の社会環境を意識して再定義し、学力の3要素である『知識・スキル・人格』を三位一体とした教育を行うために必要な教育体制、即ち「2030年型教育体制の構築」と、「二松學舎大学を更に優れた大学へのブランドアップ」を目標として掲げました。プラン遂行に当たっては目標校を数校設定して、目標校の学生応募倍率や就職率等各指標と本学の同指標との差を可視化し、その差が生じている課題を抽出し、これを解決・実現することで、目標校に到達しようというチャレンジングなPLANです。皆様方には引き続きご支援・ご協力をお願い致します。

# 平成30年度 二松學舎大学 父母会定期総会議事録

日 時：平成30年5月26日（土）13：35～17：40

場 所：九段校舎 中洲記念講堂

講 演：「なぜ、いま経営学なのか

～都心で学ぶ経営実務の必要性～」

二松學舎大学国際政治経済学部准教授

小久保欣哉先生

出席者：本年度会員数 2,963名

委任状 1,015名

出席者 54名 合計 1,069名

大学側：菅原学長、高野副学長、磯副学長、  
瀧田学務局長、小西教学事務部副部長、  
馬淵学生支援課長、竹内学生支援課員

## 1. 開会の辞 司会 加藤典子氏

司会者より「本日総会時の会員数は、2,963名であり、父母会会則第9条により委任状を含めて592名の出席が必要です。本日の出席者は54名。委任状は1,015名。合計1,069名です。よって本日の総会は成立する。」との説明があった。

続いて、南條麻里父母会長、菅原淳子学長からそれぞれ挨拶があった。

## 2. 議長指名

司会者より「総会の議長は父母会運営細則により会長または会長の指名するものとなっており、会長より中澤稔さんが指名されているので、中澤議長のもとで議事を進行させたい」との説明があり、中澤氏が席についた。

## 3. 書記・議事録署名人指名

中澤議長が書記及び議事録署名人として次の各氏を指名した。

書 記	安達香里氏
議事録署名人	鈴木千晶氏、小柴有佳氏

## 4. 議 事

### ◇第Ⅰ号議案〈平成29年度事業報告並びに決算〉

南條会長より、議案書に基づき概要説明があり、続いて久田会計監査より監査報告があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

### ◇第Ⅱ号議案〈平成30年度役員選出〉

中澤議長から、会則第6条・9条及び父母会運営細則第3条に基づき、総会において役員（会長・会計監査）を選出することとなっているとの説明があり、その選出方法について諮られた。

選出方法が議長に一任されたのを受け、中澤議長から前回同様、大学側に候補者の推薦を依頼したいとの提案があり、承認された。依頼をうけた大学側（瀧田学務局長）より次の各氏が推薦された。

会 長 宮脇正裕氏

会計監査 白根真弓氏、田中清美氏

中澤議長が大学側から推薦された各氏について諮ったところ異議なく承認された。

続いて宮脇新会長より就任の挨拶があった。

### ◇第Ⅲ議案〈平成30年度事業計画並びに予算〉

宮脇新会長より、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

議事終了後、下記の退任役員へ菅原学長より感謝状と記念品が贈呈された。

南條麻里氏、酒井継美氏、結城文子氏、  
久田恵美氏

## 5. 閉会の辞 司会 加藤典子氏

### ◇懇親会

九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催された。

17時40分、盛会のうちに終了した。

平成30年5月26日

議 長	中澤 稔	Ⓐ
議事録署名人	鈴木 千晶	Ⓑ
議事録署名人	小柴 有佳	Ⓒ
書 記	安達 香里	Ⓓ



桜花爛漫の四月の入学式からはや四カ月。七八三名を数えた新入生もキャンパスでの生活にも慣れ、ようやく大学生らしくなってきました。高校時代とは異なり、自分の裁量・責任で、判断・選択し、作り上げていく生活が始まりました。新たに出会う様々な経験をえた学友が二松學舎で新しいスタートを踏み出しました。ここでは、大学生活に対する抱負・意気込みを各学科の新生入生に書いてもらいました。



国文学科

中ノ瀬 彩佳

高校二年の冬。私は冬休みの宿題

で、夏目漱石作「こころ」を読んだ。その前の年に三島由紀夫の「金閣寺」を読んでいたが、まだ思考が幼かったからかいい印象を持たなかった。しかし、「こころ」を読み、近代作家の書く作品に興味を持った。当時、私は本を読まないわけではなかったが、もっぱら読むのはライトノベルか漫画ばかりで、現代文学作品にもあまり触れなかった。そんな私が近代文学に興味を持ったのだ。今思うと、これが二松學舎大学を志望するに至った最初のきっかけかもしれない。

それからしばらく経ち、結局まだ近代文学に触れていなかった高校三年の時。あまり勉強が得意なわけではなかったため、志望校に入れるかどうか、本当にそこでいいのか悩んでいたところ、授業中、国語の先生が「国語の勉強をしたいなら、二松學舎大学に行くのもいい。」

と、言った。私は近代文学を学びたかった。昔から興味があった源氏物語も学んでみたかった。私はこの言葉聞き、二松學舎大学を目指すこ

とを決めた。

合格して入学してみると、授業は想像通りだった。日本文学研究入門では、研究方法を教わりながら、先生が授業中に挙げた作品を一通り読んでみた。日本文学全史では、大まかではあるものの、古事記、日本書紀などの上代の文学、源氏物語、枕草子などの平安文学など、様々なことが学べてとても充実している。

また、私は昔から伝統芸能にも興味があり、狂言研究会に所属している。大藏吉次郎先生に本物の狂言を指導していただける、非常にやりがいのあるとても面白いサークルである。狂言は古くからあるものだが、その内容は現代にも当てはまるところが多く、自分の範囲で演じることが出来る。私はそこが魅力的だと思った。

都会の真ん中とは思えないほど、緑が近くにあり心安らぐ環境で自分のしたい勉強ができて今、とても幸せである。しかし、これからは自分に対して、もっと厳しくなり、今の幸せな環境をもっと存分に生かしていきたい。



中国文学科

柴田 ひより

二松學舎大学に入学を決め、一人暮らしができるかどうか不安で仕方なかったあの頃から早四か月。入学当初は第一志望の大学への心残りが少しあったが、一人暮らしにも少し慣れてきた今では二松學舎大学に入学して本当に良かったと思っ

ています。私は将来、中等教育の書道の教員になりたいと考えている。授業を通じて、書道の先生方からご指導いただく中で、「書」を極めるためには、ただ字がうまく書ければ良いというものではないということに改めて気づかされている。

大学の授業では、一年次には専攻分けがないため、様々な興味・関心を持つ仲間たちと同じ授業を受けることになるので、私自身がこれまであまり興味のなかった分野でも、楽しそうに話す友人の姿を見える中で思わず調べてしまうことがよくある。

例えば、中国学を通じて学ぶことのできる中国王朝の歴史、その中で「書」が生まれた年代や歴史的背景について学びを深めたり、漢文訓読法で漢文に触れる機会が増えたり

と、様々な知識を加味したうえで「書」に触れることで、「書」の楽しさを再確認できた気がして、

「ああ、この気持ちを生徒に伝えていけたら」と日々感じている。

この居心地の良い新鮮な環境の中で毎日を過ごすことができるのもとても幸せである。これからも同じ目標を持つ仲間同士で切磋琢磨し、助け合いながら、それぞれの目標に向けて大きな壁を乗り越えていきたい。



## 大学に入学して

四月の入学式から大学生活が始まり、あつという間に七月になった。高校生の時より二倍も時間がかかる通学や朝の満員電車、夕方の帰宅ラッシュにもどうにか耐えられるようになり、忙しくも充実した日々を送っている。この時期になると、既に大学での生活に慣れたと言う人が半数以上を占めるのではないだろうか。しかし、私はまだ自分もそうだとすることが出来ない。

私はゲームやアニメ、ライトノベルが好きで、サブカルチャーの勉強をしたいと思い、都市文化デザイン学科に入学した。始めは地元から離れた見知らぬ土地での学生生活に不安を感じていたが、校友関係が広がるに連れ、不安よりも自分が井の中の蛙だったことに気づいた驚きの方が大きくなった。友人達との趣味についての雑談、授業のグループワークでの話し合い、様々なタイピングで新しい視点を教えられ、その度これまで自分の視野が狭かったことを痛感している。また、都市文化デザイン学科の先輩方が企画したイベントなどにも参加させてもらい、



都市文化デザイン学科

荒井 彩花

そちらでも新鮮な経験をさせてもらった。私が「大学生活に慣れた」と言うことが出来ないのは、このように周囲に新しい刺激が満ちているからだ。

そして、授業にも刺激がある。最初こそ高校までの授業と違うため、かなり戸惑った。しかし、先生方は個性が強い人も多い代わり、どの授業でも興味深く面白い話が聞ける。また、ある授業では毎回講義をする先生が替わるため、普段は他の学科を担当していて接点がありません。レポートのプレゼンにはまだ苦手意識があるが、逃げずに様々なものを吸収していこうと考えている。

多くの刺激に満ちているこの環境は、とても貴重なものだ。私はこの環境にいることを、ここで得た気づきを無駄にしたくはない。大学四年間での経験を自分の血肉にかえられるように、努力を怠らず勉強を続けていきたい。



## 国際政治経済学科

## 島山和樹

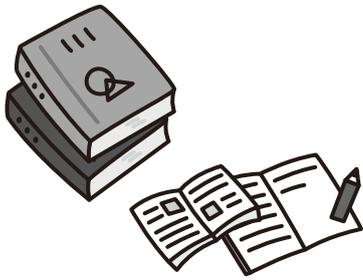
私は将来やりたいことや就きたい職業が今のところない。高校時代、周りが進路について話し始めてきた時期、特に何を考えるわけでもなく大学進学することに決めた。長い受験期を経て、先輩や知り合いからの勧めもあり、二松學舎大学に入学した。自転車です十五分程度の高校に通っていた自分にとって二松學舎大学

は電車で片道約一時間三十分の距離があるのでちゃんと通えるかどうか正直不安だった。しかし、入学から約三か月が経ち、東京の騒がしい環境や満員電車にも慣れ、皆勤とはいかないまでも、しっかりと通うことができている。サークルや部活には所属していないが、学校に行けばゼミで仲良くなった友人や地元が一緒に友人、共通の趣味を持った友人がいるので自分にとっては充実した大学生を送っている。

今まで、ぼんやりと理想の人生を考えてきたが、その通りに進めていると思えることは少ない。しかしそれは当たり前のことである。誰もが理想の人生を歩めるわけではない。大学生生活はそれをすこしでも理想に近

づけるための四年間だと私は思っている。いろいろな授業を通して専門的な知識を身に付け、社会を生き抜く力を身に付ける。自分の場合は、目標がなければやるべきことも定まらないので、できるだけ早くやりたいことをみつきたい。

大学は高校のときと違って、自分一人ではやらなければならないことが多い。周りに頼ることも大切だが、一人では何もできないような人間にはなりたくない。この先も理想の人生とは違うことが多くあるだろうが臨機応変に対応していきたい。そしてこの大学四年間を充実したものにしていきたい。



## 大学に入学して

二松學舎大学に入学して四か月がたった。まず、この四か月間の大学生活で感じたことは、自主性の大切さである。大学生活は中学や高校と違い自由な時間が多い。これは、一見すると楽なように感じる。しかし、自由である分、時間を工夫してつかわなければならない。では、そんな大学生活と自主性にはどんな関連があるのだろうか。それは、自主性のない大学生活は無駄であるということだ。周りと同じような四年間を過ごしていても、社会にでた時に何の役にもたたない。さらに、四年間も自由に使う時間があるのなら、やりたいことや将来のためになことを行ったほうが、充実するのは明らかである。また、大学の授業は先生が一方的に進めていく形式が大半であり、授業だけで全ての内容を理解することは難しい。そのため、授業前から自主的に学習をしたり、わからないことがあったら、質問にいくなどをしなければならぬ。このように大学生活には、今までの生活にはなかった自主性というものが求められる。



## 国際経営学科

## 飯野豪

入学直後は、大学に慣れることに精一杯で考えなかったが、生活しているうちに、考え始めたことがある。それは、海外留学である。まず、それを考えるきっかけになったのが、大学で出会った人々である。大学にはたくさんの方がいて、住んでいる場所や暮らしも様々である。そういった人々と会話をする中で、自分の見てきた世界の狭さに気づくことができた。海外留学をすれば、今までは見ることのできなかった世界や様々な出会いがあるだろう。時間に余裕があり、将来について考える時期だからこそ、ぜひ海外に行つて様々な経験をしてみたいと思う。また、国際経営学科に入学したのだからこそ、英語特別プログラムを学びたいと思ひ、とても楽しみにしている。

私はこの大学生活の四年間を通して、たくさんの方のことを経験し、就職活動をするときに、自分が本当にやりたい仕事を選べるようになりたい。そのためにも、時間を有効に使い、自主性をもって様々なことにチャレンジしていきたい。それが、自分を最も成長させることに繋がると思う。



文学部 准教授  
中谷 いずみ

友人たちと過ごしたり、アルバイトに励んだり、図書館で課題に取り組んだりと思いの多い大学生活ですが、特に印象深いのは、長期休暇ごとにしかけた一人旅です。旅先での経験は、ものの方や考え方に大きな影響を与えることとなりました。

は、生活のためのバイト代から毎月少しずつお金を貯め、長期休暇の旅費にしました。大きなリュックを背負い、長距離フェリーや青春十八きっぷ、周遊券などを使って国内をまわっていると、鈍行列車で隣に座った地元のおばさんが蜜柑を分けてくれたり、雨の中、川音がごうごうと響く坂道をトボトボ歩く私を心配したタクシートの運転手が無料で乗せてくれたりと、人の温かさにもふれることも多くありました。また宿泊先のユースホステルで、同室の他大生たちと旅の情報を交換し合う



国際政治経済学部 准教授  
小久保 欣哉

幼少の頃から本や漫画を読むこととサッカーをすることが好きでした。確か中学生の頃だったかと思いますが、柴門ふみ著『あすなる白書』という漫画を読みました。主人公が友人達との交流や社会で生きる苦悩、葛藤を経て人間としての成長を遂げていく、という物語です。主人公の

男子高校生が大学受験、大学卒業後にコンサルテイング企業での就業を経て、北海道で大学教員になるという内容です。当時私は、この漫画の影響を受けて、経営コンサルタントと大学教員に興味を持ったことを覚えています。大学、大学院では経済学を専攻しました。世の中の動きを把握する力を養いたいと考えたためです。マクロ経済学や計量経済学という学問領域に関心を持ち、特にケインズという英国の経済学者の理論に魅了されました。大学院時代に春休みを利用

# 私の学生時代

時間がとても楽しかったことを覚えていきます。

旅の思い出で特に忘れられないのは、同室になった年配の女性のことです。私が国文学科で近代文学を専攻していると知ると、女性は戦争中に学徒出陣したお兄さんのことを話してくれました。出発の前日、お兄さんは北原白秋の詩の一節「薔薇ノ木ニ薔薇ノ花サク。ナニゴトノ不思議ナケレド。」を口にして「どう

いう意味が分かるかい？」と尋ねたのだそうです。「わたし、わからないわ」というと「僕も分か

らないんだよ」と。戻れないことを覚悟していた兄がなぜあの時あの詩を口にしたのか、今でも考えるのだと女性は語ってくれました。詩は次のように続きます。

薔薇ノ花。  
ナニゴトノ不思議ナケレド。

照り極マレバ木ヨリコボルル。

光リコボルル。(薔薇二曲)

そのお兄さんはどんな思いで白秋の詩にふれたのでしょうか。そして同室になったあの女性はどうな思いで私に話してくれたのでしょうか。一人の文学研究者として忘れてはいけない問いを、学生時代にもらったような気がします。

してケインズ発祥の地である英国に短期留学をしました。留学先では続けてきたサッカーの経験も役に立ちました。放課後、公園にジャージ姿でサッカーボールを持って練習に行くと、見ず知らずの誰かがかか話しかけてくれました。一緒にサッカーをしようかと誘ってくれたのです。流石サッカー発祥の地だなあと感じました。

学ぶ必要を感じました。昼は経営コンサルタント、夜は社会人大学院生としての生活を送り、二つ目の修士号を経営学で取得しました。その後数年間は経営コンサルタントとして経営理論を実践することに没頭しました。

二回目の学生時代を迎えたのは社会人三年目の時でした。当時、経営コンサルタントにもかかわらず経営理論の知識が充分ではなく、改めて

三回目の学生時代も経営コンサルタント兼、社会人大学院生として迎えました。経営実務の経験を理論として体系化したいと考えて、経営学で博士号を取得しました。

振り返ると私の人生は学びの連続でしたが、まだまだ知らないことが多く、日々新しいことを学んでいきたいと考えています。

●四年次生で進路未定であれば来室を促してください！

四年次生から就職内定の報告が次々と入っております。進路決定した学生につきましては、おめでとうございます。

進路が決まった場合は、必ずキャリアセンターに報告するよう、お伝えください。学生の進路状況は文部科学省に報告する義務がございます。ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

進路が未定の場合は、やはりキャリアセンターへの来室を促してください。今も企業からの求人が続々と届いております。連日、企業の採用



学生相談

担当者の来客が途絶えません。二松學舎大学の学生を採用したいという企業は多数あります。いずれも卒業生が活躍してくれている企業などで、先輩が活躍しておりぜひその後輩を採用したい、二松學舎大学の卒業生を評価している企業です。卒業生が在籍していない企業でも、求人内容はキャリアセンターで精査し、その上で学生に紹介するようにしています。安心して働くことができます。ぜひ大学

に来てほしいと思います。求人数が充足すれば終了します。良い条件の求人は応募者が集まり、早い段階で充足します。つまりは学生側としては、早い行動が大事なのです。企業就職を考えているのであれば、早いアクション、キャリアセンターへの少しでも早い相談をお勧めします。

●三年次生は秋に個人面談です！

二松學舎大学では、学生それぞれの希望の進路実現に向けて、個別のフォローを行います。そのきっかけとなるのが、三年次生の『全員個人面談』です。全学生を個別で面

ア  
ー  
51  
リ  
タ  
リ  
ヤ  
ン  
よ  
キ  
セ  
だ

談し、考えている進路をヒアリングし、その後の支援に繋げていきます。この面談は、卒業後の進路について『民間企業』『公務員』『教員』だけでなく『進学』希望なども含めて三年次生の希望を登録する重要な面談となります。

進路希望が固まってなかった場合に、しっかりと考えて行動し始めるきっかけになる場合もあります。

ご家族で進路について話し始める機会にもなるかと思えますので、ご父母の皆さまからも個人面談を受けたかの確認や、キャリアセンターの利用を促していただければと存じます。

個人面談は秋 semesterの九月から十一月で実施します。それに先駆けて『就活スケジュールガイド』も実施予定です。いよいよ本番。しっかりと準備していきましょう。

●キャリア形成支援ワークショップ

低学年から参加できるキャリア

リアイベントとして、『キャリア形成支援ワークショップ』を秋 semesterから始めます。楽しく参加できるワークショップ形式で、学生のキャリア形成を支援していきます。プロのワークショップデザイナーを招いて、物事を深く考えたり、自己プレゼンしたり、対話をしたり、他者と協働したりします。学部学年問わず参加できますので、ぜひご子女にお勧めください。毎月、曜日と週を決めて『ワークショップデー』として設定し、楽しく実践していきます。



中洲記念講堂でのガイダンス

# ✿ 新 入 生 歡 迎 式 典 ✿

平成三十年学生会執行委員会会長を務めております、文学部国文学科の宮下凌輔です。まずは新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。もう新入生の皆さまは、大学生活には慣れましたでしょうか。大学生ということで今までの環境と大きく違う新しい環境へと踏み出し、心配なことや大変なこと、緊張することも多いかとは思われますが、東京の中心で学ぶ楽しさや利便性、人間関係など、得られるものも多いことかと思われまます。

さて、四月七日に新入生との交流を深めるために、そして新入生により二松學舎大学を知ってもらうために新入生歓迎式典を開催いたしました。今年度は、皆様にとつての新入生歓迎式典が良い機会、門出となるようにとの思いを込め「ゆきあい」という言葉で役員一同進めてさせていただきました。この言葉通り、参加してくださった新入生の新生活の一步を、在校生が明るく華やかに彩ることが出来ていれば幸いです。今年度は例年と違い、健康診断の日付

と被ってしまったため、例年と仕様が異なることが多く、関係者の皆様方にご迷惑をおかけすることとなつてしまいました。無事に開催、終了することが出来たことを何よりもうれしく思います。新入生歓迎式典を開催するにあたり、父母会の皆様、学生支援課の職員の方々、新入生を温かく迎え、盛り上げてくださった各部活動・サークルの皆様および協力していただいた関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

改めまして新入生の皆様、二松學舎大学へようこそ。新入生歓迎式典をはじめ、今後生活するうえで得られる団体、友人とのつながりを生かし、大学生活がより充実したものになることを学生会執行委員会役員一同心より願っております。これから四年間、良いこと悪いことと様々なことがあるとは思いますが、同じ二松學舎生として一緒に頑張っていきましょう。今後ともよろしくお願ひいたします。

今年度から新システムが導入され、学生は自分の出欠情報をライブ・キャンパス上で確認できるようになりました。文系大学で学生生活を過ごした親御さんは、ご自身の学生時代を振り返り、時代の変化を感じていることと思います。出席への意識が高まっている昨今、学生にとって授業の意義は、いちだんと大きくなっています。

## 学 生 相 談 室

### だ よ り 101

カウンセラー・教授 改田明子

乗り越えなければならぬハイドルのように感じる話。アルバイトは難なくこなすものの、授業となるとなかなか出席できない話。出席することに意味が感じられない話。出席できないの体験は千差万別ですが、授業のことを強く意識して、出席できないことに苦しんでしまいます。「授業に出席しない」という経験は、簡単に「さぼり」の一言ですませられるほど単純なことではありません。本人は、自分にいらだちながらも、どうしようもない行き詰りのなかで苦しんでいるのでは、と想像します。授業に出席するだけが大学生活ではない、と多くの人がおおらかに受け止

なかでの自分の所属を確認する安心感。授業の出席によって得ることはたくさんあるでしょう。さて、学生相談室でも、授業の出席はよく話題に上りますが、その多くは「出席できない」話です。かつて何も考えずにスムーズにできていた授業への出席が、自然なペースで回らずに、一回一回

めていた時代なら、このつらさもちよつと違ったかもしれません。そのような人生の危機にあり、周囲ができることは本当に限られてきます。せめて、真剣に生きようとしているその努力の密やかな目撃証人かつ伴走者になりたい、そんな気持ちで試行錯誤を続けていきます。

# POP @ GUTS 2018

こんにちは、九段祭POP 2018責任者を務めさせていただきました。文学部国文学科二年の小磯彩歌です。今年も文化系団体が日頃の活動の成果を発表する、学内生向けの文化祭として六月十七日(日)に学生会執行委員会が主催となり、九段祭POP2018を九段キャンパスにて開催いたしました。「響」というテーマ、「九段祭POPに関わるすべての人とひとつの音を奏でられるように」というコンセプトを掲げ、九段祭POPに携わる方々が楽しめるような、そして一致団結できるような行事にしたい、と役員一同準備を進めてまいりました。

今年も昨年同様、多くの団体に参加していただくことができました。どの団体も開催日当日に最高の発表が行えるように準備をしている姿が多数見受けられました。我々学生会執行委員会も団体が満足のできる発表が行えるようにフォローしてまいりました。

開催日当日、教室での発表や中洲記念講堂でのライブは団体、来場者という垣根を越えて双方が楽しむ姿を多数見受けられました。どの団体も志向を凝らした発表を行うことができましたのではないかと感じられます。また、学生会執行委員会でも、毎年恒例となっているビンゴ大会にサプライズを加えたり、小さい子どもから大学生まで楽しむことの縁日、来場の思い出づ

くりとなるようなプランを用意した手作りキーホルダーを作成できる企画などを準備いたしました。来場者の皆様の心の片隅に残ったのではないかと、楽しんでいただけたのではないかと、思います。

梅雨時の開催であったにもかかわらず、雨も降ることなく天候に恵まれ、今年も過去最高だった昨年を超え二六四名の皆様にお越しいただけました。これもひとえに参加団体の皆様の素晴らしい発表、また、足を運んでいただいた来場者の皆様のおかげです。九段祭POPに関わるすべての人とひとつの音を奏でることができたのではないかと思います。参加していただいた団体の皆様、来場していただいた皆様、ありがとうございました。

梅雨時の開催であったにもかかわらず、雨も降ることなく天候に恵まれ、今年も過去最高だった昨年を超え二六四名の皆様にお越しいただけました。これもひとえに参加団体の皆様の素晴らしい発表、また、足を運んでいただいた来場者の皆様のおかげです。九段祭POPに関わるすべての人とひとつの音を奏でることができたのではないかと思います。参加していただいた団体の皆様、来場していただいた皆様、ありがとうございました。



学生会執行委員会の皆さん

「柏祭GUTS2018」  
柏祭GUTS2018責任者を務めさせていただきました。文学部国文学科二年の新倉大輝です。本年度も、例年同様、本学柏キャンパスにて『柏祭GUTS』を開催いたしました。本年度は、例年の二競技開催ではなく、柏祭GUTS開催日が梅雨時であるため、雨天時を考慮し、三号館大学体育館を使用し、ドッジボールのみを一競技開催いたしました。体育館のみでの競技開催ということ、雨天の心配はありませんでした。しかし、私自身、それほど学内の方々にエントリーしていただけるかの不安がありました。その不安は的中し、エントリー期限終了間近になっても「エントリーしたい」という連絡はなかなか来ませんでした。最悪の場合、柏祭GUTSを開催中止にするということも考えました。しかし、なんとかエントリー期限終了当日にエントリーが集まり、柏祭GUTSを開催することが可能となりました。

本年度の柏祭GUTSのテーマは、『VICTORY』。目指せ勝利！目指せ優勝！というコンセプトのもと、開催日に照準を合わせ、役員一同、準備を進めて参りました。開催日当日に見受けられました、エントリーしてくださった皆様の楽しそうな顔、笑顔を見ました。しかし、ここまでの道のりは、決して楽なものではありませんでした。正直、責務を投げ出

してしまいたくなる時もありました。しかし、その時、私のことを仲間が支えてくれました。転びそうになったところを、手を差し伸べ、立ち上がらせてくれました。そんな仲間にも恵まれたことを、私は心から嬉しく思っています。当然のことではありますが、一人の力では決して柏祭GUTSを開催することは出来ませんでした。

私自身、今回の柏祭GUTSを通じて、仲間との『縁』、エントリーしてくださった方々との『縁』を強く感じました。エントリーしてくださった皆様、そして、私に力を貸してくださいました関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。そして、今後とも、学生会執行委員会を何卒よろしくお願いたします。



GUTS2018 優勝チーム えづこーぜ

## 白井ゼミナール

私たちの所属する白井ゼミナールでは、井原西鶴の作品を中心に近世文学を学んでいます。

授業は、基本的に発表形式で行われ、毎回発表者の組み合わせが異なるのが特徴です。発表はグループワークで、翻刻から行い、本文の内容や特筆すべき点について考察します。また、その中で、本文の解釈や文章そのものが本当に正しいのかまで考え直すので作品理解がさらに深まります。

合宿は年二回で夏と春に行います。夏に三・四年合同で行われ、春は三年の卒論へ向けての勉強合宿です。また、夏は合宿の後に合宿中に得た知識を深めるための学習発表会を大学で行います。

それ以外では、「遊山」と呼ばれる「文学散歩」を行っています。事前に決めたコース(博物館やお寺や大名庭園など)を約半日かけて回る、アクティブなイベントです。伝統のあるお店でおいしいものを買って食べるのも、この散歩の醍醐味で

統芸能はもとより、それにまつわる文学作品や当時の文化等の知識を得ています。

人数は少なめですがその個性を發揮できる場が多く、新たなチャレンジを行うには最適な環境で日々学んでいます。また、先述のように少人数であるからこそ先輩とのつながりも強く、卒業生の方々から差し入れや手厚い支援をいただいています。そのお返しとして私たちが自分たちで作成した手製本の論集をお



「松尾クン、一句ひねって」

送りにしています。手製本する機会はないかながなく、最初は失敗もしますが、貴重な体験ができていと思います。

十六代目社中一同

## 岩崎ゼミナール

岩崎ゼミでは宇宙に関して勉強しています。え！この学校で宇宙のことを勉強するの？ 例えば、経済学部に入ったのだから経済学のゼミに所属するのも良いと思います。私たちは、経済学とは違った宇宙物理学を通じて論理的思考力を身につけます。さらに物事を一方向から考えるのではなく様々な角度から見て考えるという力をつけて社会に出たときに活躍出来る人間になれるようにという目的で

宇宙物理学を学んでいます。内容は宇宙に関する本を章ごとに分けて読み進めていきます。他に自ら調べた宇宙に関するテーマの発表。先生は、そのテーマについて細かいところまで説明をつけて下さるので更に知識を深める事が出来ます。三年では清里で夏合宿。そこで夜空や電波天文台の見学。四年の後半になると一つのテーマに絞ってそれについて調べて発表します。年末には、その発表してきた内容をパワーポイントにまとめてプレゼンします。このゼミでは、星

の一生や惑星の事、電波望遠鏡など分かりやすい内容のテーマの時もあれば、高速電波バースト、光のドックプラー効果などの難しい内容にも頑張っており組んでいます。特に高速電波バーストは、発見されてまだ十年くらいしか経っておらず未だ起源が、はっきりとわかっていない現象です。岩崎先生のゼミの面白いところは、宇宙の基本的な事から最新の宇宙の事情まで幅広く宇宙について学ぶことが出来ます。ぜひ宇宙の真理に一步近づいてみては、いかがでしょうか。



うか？  
国際政治経済学科四年 藤井 航太

# ゼミ 探訪

## 平成29年度決算の概要

二松學舎創立135周年(平成24年10月)を機に策定した長期ビジョン「N'2020 Plan」及びその実行計画「アクションプラン」の各課題について、施設設備整備をはじめ大学・両附属高校・中学校の具体的な改革を推進している。さらに、二松學舎創立140周年を機に新長期ビジョン「N'2030 Plan」を策定し2030年に向けた本法人全体の指針として公表した。当年度、入学者の募集定員充足率は、大学/学部121%、附属高校93%、柏高校104%、柏中学校54%であり、在籍者の収容定員充足率は、大学/学部119%、附属高校96%、柏高校112%、柏中学校45%であり、大学院、附属高校、柏中学校で入学定員、収容定員とも未充足となった。大学では、新たに大学九段5号館として校地及び校舎を取得したほか、図書館情報管理システムのクラウド化、大学九段3号館教室のICT機器の更新、大学柏校舎では貯水槽及び柏1号館・4号館高架水槽の耐震化、柏1号館空調設備及び5階大教室AV設備の更新、学生食堂・売店の改修整備及び外階段新設工事等を実施した。附属高校では九段校舎外壁の補修工事、生徒増加に伴う教室の改修及び教育研究用機器備品の整備を実施し、附属柏中学・高校では貯水槽・西校舎高架水槽の耐震化、無線LANの整備、教員用パソコンの更新等を行った。大学においては、平成23年3月11日に発生した東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災学生に対し、授業料等の減免措置を引き続き実施した。

平成25年4月に学校法人会計基準が改正となり、財務計算書類の大幅な書式変更が行われ、文部科学大臣所轄の学校法人(本法人)は平成27年度決算から新基準が適用となった。

従来、学校法人における決算書は、事業年度の消費収入と消費支出の均衡状態や財政の健全度合いを示す「消費収支計算書」、学校法人の諸活動に関わるすべての資金の流れを示す「資金収支計算書」および年度末における資産・負債・正味資産の状態を示す「貸借対照表」の3つであった。

改正後、「資金収支計算書」は、多少の科目名の変更があるがほぼそのままである。新たな附属表として「活動区分資金収支計算書」が加わり、「教育活動」、「施設整備活動」、「その他の活動」に3区分し、資金収支情報の充実が図られた。

消費収支計算書は、「事業活動収支計算書」として名称が変わり、大きく書式変更となった。新基準では、「教育活動収支」(本業)と「教育活動外収支」(財務)の經常収支と臨時的な「特別収支」に区分され、基本金組入前当年度収支差額(従来の帰属収支差額)を表示する様式となった。

### 平成29年度の決算概況

#### 1. 事業活動収支計算書について(別表1)

事業活動収入合計が58億92百万円、事業活動支出合計は55億7千4百万円、基本金組入前当年度収支差額は3億1千8百万円の収入超過(前期比8千万円減少)となった。基本金組入額は4億9千5百万円(借入金返済額2億4千9百万円、施設設備整備2億3千7百万円、奨学基金8百万円)であり、当年度収支差額は1億7千6百万円の支出超過となった。

教育活動収入は、入学者数が大学院21名・学部728名・附属高校233名・柏高校291名・柏中学校55名、合計1,328名で前期比26名減少、在籍者数は大学院52名・学部2,866名・附属高校721名・柏高校944名・柏中学校137名、合計4,720名で前期比54名減少し、学生生徒等納付金は40億5千万円(前期比約6百万円増加)となった。經常費補助金は9億3千2百万円(うち国庫補助金2億5千9百万円、東京都補助金2億5千9百万円、千葉県補助金3億4千2百万円)、付随事業収入が9百万円、雑収入は2億3千8百万円(うち退職金団体交付金1億6千9百万円)で合計55億6百万円となり、教育活動支出は、人件費が30億1千7百万円(大学新学科・附属高・柏中学教員増加、退職給与引当金増加等により前期比1億円増加)、教育研究経費は19億5千4百万円(創立140周年事業、附属高甲子園出場等により、前期比1億円増加)、管理経費は5億5千8百万円(140周年事業により前期比6千1百万円増加)、教育活動収支差額は3千万円の支出超過、資産運用収入及び借入金等利息等の教育活動外収支差額は1億8千6百万円、經常収支差額は1億5千5百万円、資産売却及び資産処分差額等の特別収支差額は有価証券売却差額の減少により1億6千3百万円となった。

#### 2. 資金収支計算書について(別表2)

収入の部では、有価証券の償還等による資産売却収入は18億7千8百万円、(前期比1億5千4百万円増加)、設備投資に伴う借入金収入が10億円、学納金等の前受金収入は9億6千6百万円、その他の収入は退職給与引当特定資産等からの繰入収入、前期末未収入金収入等により5億1千7百万円、前期繰越支払資金26億9千6百万円を含め収入の部合計額は115億6千1百万円となった。支出の部では、人件費支出が30億3千8百万円(教員増加、退職金増加により前期比1億円増加)、教育研究経費支出は13億7百万円(前期比1億円増加)、管理経費支出は5億2千7百万円(前期比6千4百万円増加)、借入金返済及び利息支出は2億7千1百万円となった。設備投資関連の支出は施設の整備拡充により11億7千5百万円、図書・備品の購入等で1億5千9百万円、資産運用支出は退職給与引当特定資産繰入、有価証券等購入により25億5千4百万円となった。このほか前期末未払金・前払金支出等2億3百万円があり、翌年度繰越支払資金は約27億円(前期比約4百万円増加)となった。

活動区分による資金収支の状況(別表3)は、教育活動による資金収支差額は6億6千3百万円(収入超過)、施設整備等活動(設備投資とその財源)による資金収支差額は13億1千9百万円(支出超過)、その他の活動(財務活動等)による資金収支差額は6億6千万円(収入超過)、これにより支払資金の増減額は前期比約4百万円(増加)となった。

#### 3. 貸借対照表について(別表4)

資産の部は、有形固定資産が大学新校舎(九段5号館)取得、附属高校舎整備、柏キャンパス(大学・柏中高)受水槽の耐震化工事、図書・備品の取得等により13億3千4百万円増加、除却及び減価償却6億9千8百万円等により186億7千9百万円(前期比6億5千4百万円増加)となった。特定資産は15億5千8百万円(1千3百万円減少)、その他の固定資産は、有価証券購入、定期預金、収益事業元入金等により31億6千5百万円(前期比9億2百万円増加)、流動資産は59億3千万円(前期比3億4千4百万円減少)となった。

負債の部は、施設拡充に伴う新規借入、長期借入金及び長期未払金の翌年度返済(支払)額の流動負債への振替、退職給与引当金の増加により固定負債は30億1千5百万円となった。また、短期借入金及び短期未払金等により流動負債は18億9千2百万円となり、負債の部合計額は49億7百万円(前期比8億8千1百万円増加)となった。

基本金の部は、第1号基本金(土地・建物・図書・備品等固定資産の取得)、第3号基本金(奨学基金)の組入額4億9千5百万円により273億8千7百万円となった。これらの結果、平成29年度末における貸借対照表は、資産の部合計額293億3千1百万円、負債の部合計49億7百万円、基本金273億8千7百万円及び繰越収支差額29億6千3百万円(支出超過)により、純資産の部合計額244億2千4百万円(前期比3億1千8百万円増加)となった。

#### 4. 主な財務比率について(別表5)

事業活動収支関係比率では、創立140周年にあたり教育研究振興資金の寄付金募集、また附属高野球部の甲子園出場による寄付金収入が増加し寄付金比率(事業活動収入に占める寄付金の割合)及び經常費寄付金比率(經常収入に占める教育活動収支の寄付金)が上昇した。事業活動収入の増加により人件費比率(經常収入に占める人件費の割合)及び教育研究経費比率(經常収入に占める教育研究経費の割合)は低下したが、管理経費比率(經常収入に占める管理経費の割合)は各種140周年事業の実施により上昇した。經常収支差額比率は受取利息配当金収入の増加により前期比1ポイントプラス、事業活動収支差額比率は有価証券売却差額の減少により前期比1.6ポイントマイナスとなった。

貸借対照表関連比率では、施設拡充に伴う借入により固定負債構成比率(総資金に占める固定負債の割合)及び総負債比率(総資産に占める総負債の割合)並びに負債比率(自己資金に占める総負債の割合)が上昇した。設備投資及び資産運用による有価証券(長期)の増加により固定資産構成比率(総資産に占める固定資産の割合)、固定比率(純資産に占める固定資産の割合)が上昇し、流動資産構成比率(総資産に占める流動資産の割合)、流動比率(流動負債に占める流動資産の割合)は低下となった。また、純資産構成比率、基本金比率、退職給与引当金特定資産保有率等は良好な水準にある。一方、設備投資に伴う基本金組入等により繰越収支差額構成比率(総資金に占める繰越収支差額の割合)は中長期的に低下傾向にある。

別表 1

事業活動収支計算書

(単位：百万円)

		平成29年度	平成28年度	
科 目		金 額	金 額	
教育活動収入	学生生徒等納付金	4,050	4,044	
	手数料	144	115	
	寄付金	132	45	
	経常費等補助金	932	882	
	付随事業収入	9	6	
	雑収入	238	150	
	教育活動収入計	5,506	5,242	
事業活動支出	人件費	3,017	2,917	
	教育研究経費	1,954	1,853	
	管理経費	558	497	
	徴収不能額等	7	8	
	教育活動支出計	5,536	5,274	
教育活動収支差額		△ 30	△ 33	
教育活動外収入	受取利息・配当金	204	149	
	その他の教育活動外収入	5	-	
	教育活動外収入計	209	149	
	事業活動外支出	借入金等利息	21	23
		その他の教育活動外支出	3	-
		教育活動外支出計	23	23
教育活動外収支差額		186	126	
経常収支差額		155	93	
特別収入	資産売却差額	138	288	
	その他の特別収入	39	29	
	特別収入計	177	316	
	事業活動外支出	資産処分差額	14	11
		その他の特別支出	-	-
特別支出計		14	11	
特別収支差額		163	305	
基本金組入前当年度収支差額		318	399	
基本金組入額合計		△ 495	△ 470	
当年度収支差額		△ 176	△ 72	
前年度繰越収支差額		△ 2,787	△ 2,715	
翌年度繰越収支差額		△ 2,963	△ 2,787	

(参考)

事業活動収入計	5,892	5,707
事業活動支出計	5,574	5,308

別表 4

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	平成29年度	平成28年度
資産の部		
固定資産	23,401	21,858
有形固定資産	18,679	18,025
特定資産	1,558	1,571
その他の固定資産	3,165	2,262
流動資産	5,930	6,274
資産の部合計	29,331	28,132
負債の部		
固定負債	3,015	2,340
流動負債	1,892	1,687
負債の部合計	4,907	4,026
純資産の部		
基本金	27,387	26,892
繰越収支差額	△ 2,963	△ 2,787
純資産の部合計	24,424	24,105
負債及び純資産の部合計	29,331	28,132

別表 2

資金収支計算書

(単位：百万円)

科 目	平成29年度	平成28年度
収入の部		
学生生徒等納付金収入	4,050	4,044
手数料収入	144	115
寄付金収入	133	54
補助金収入	963	898
資産売却収入	1,878	1,724
付随事業収入	14	6
受取利息・配当金収入	204	149
雑収入	238	150
借入金等収入	1,002	2
前受金収入	966	1,051
その他の収入	517	293
資金収入調整勘定	△ 1,244	△ 1,173
当年度資金収入合計	8,865	7,312
前年度繰越支払資金	2,696	2,712
収入の部合計	11,561	10,024
支出の部		
人件費支出	3,038	2,889
教育研究経費支出	1,307	1,206
管理経費支出	527	464
借入金等利息支出	21	23
借入金等返済支出	250	250
施設関係支出	1,175	113
設備関係支出	159	163
資産運用支出	2,554	2,188
その他の支出	203	220
資金支出調整勘定	△ 373	△ 189
当年度資金支出合計	8,861	7,328
翌年度繰越支払資金	2,700	2,696
支出の部合計	11,561	10,024

別表 3

活動区分資金収支計算書

(単位：百万円)

科 目	平成29年度	平成28年度
教育活動による資金収支差額	663	725
施設整備等活動による収支差額	△ 1,319	△ 248
その他の活動による収支差額	660	△ 493
支払資金の増減額	4	△ 16
前年度繰越支払資金	2,696	2,712
翌年度繰越支払資金	2,700	2,696

別表 5

主な財務比率

(%)

比 率	平成29年度	平成28年度
人件費比率	52.8	54.1
人件費依存率	74.5	72.1
教育研究経費比率	34.2	34.4
管理経費比率	9.8	9.2
事業活動収支差額比率	5.4	7.0
学生生徒等納付金比率	70.9	75.0
補助金比率	16.3	15.7
基本金組入率	8.4	8.2
固定資産構成比率	79.8	77.7
有形固定資産構成比率	63.7	64.1
特定資産構成比率	5.4	5.6
流動資産構成比率	20.2	22.3
固定負債構成比率	10.3	8.3
流動負債構成比率	6.5	6.0
総負債比率	16.7	14.3
退職給与引当特定資産保有率	100.0	100.0
内部留保資産比率	18.5	20.8
運用資産余裕比率(年)	1.3	1.5
純資産構成比率	83.3	85.7

注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

## 平成30年度予算の概要

二松學舎創立140周年（平成29年10月）を機に策定した新長期ビジョンN'2030 Planにより、「いままでの140年、これからの140年」をテーマに、建学の精神に基づき「豊かな人間力を有し、自ら考え行動する人材、人々の長い歴史と英知を擁する古典から未来を学び、的確な国語力を備えた真の国際人の養成」を基本とし、複雑化する社会のニーズに応える教育体制の構築をめざす。

大学は平成29年4月の文学部都市文化デザイン学科の設置に続き、平成30年4月に国際政治経済学部国際経営学科を設置し、大学部門は2学部5学科となる。「国際経営学科」では、情報・外国語の優れた運用能力を基礎力として、課題を見極め解決する力、国際社会を生き抜く実践的な「創造的思考力」と社会の変化に対応して自らのキャリアを主体的に切り開く力を身に付けた人材を養成する。附属高校は、「心を育て 学力を伸ばす」というコンセプトの下、人格教育と社会で十分役立てるような学力養成を目指して教育活動を行う。当年度は附属高校創立70周年を迎え、記念式典、講演会ほか各種周年事業を実施する。柏中学校では、グローバルコース設置し、ネイティブの英語授業、国語、韓国語の選択講座を設定し、さらに内外の多様な語学研修への参加機会を提供する。柏高校では従来の進学コースと特選コースに加えて、スーパー特選コースとして難関大学を目指すクラスの設置により生徒の学習目標・意欲の向上と自己統率力の育成を行う。

キャンパス整備については、九段1号館地下2階トイレ改修、学生・教職員の身分証明書ICカード化及び各種システムの改修、九段・柏両キャンパス図書館入館ゲートの入替え、九段1号館各教室AV設備・ICT機器の入替え、九段図書館学習支援用PCの入替え、九段教員研究室パソコンリプレース、柏2号館トイレ改修工事、柏2号館チラー冷温水ポンプ他ポンプユニット交換、柏5号館空調設備更新工事などを実施する。附属高校では、パソコン教室コンピュータシステムの更新、調理室の改修整備、特別教室（アクティブ・ラーニング）の設置、理科実験機器類の購入、教員用印刷機の新規導入、柏高校では、北校舎空調設備更新工事、高校理科室の実験器具の整備、中学校のICT環境整備、校務用サーバの更新、特別教室プロジェクターの設置、屋内消火栓ポンプユニットの交換などを計画している。キャンパス整備の進捗に伴い、私学事業団への借入金返済のほか校舎・グラウンドの維持管理や情報システム機器の運用・保守に係る経費など、長期に亘り多額の支出が続くことが予想される。

教育活動収支については、収入面では在籍者数増加により学納金収入が増加する見込みである。一方、支出面では大学国際政治経済学部の国際経営学科開設に伴い人件費（ほか退職給与引当金を含む）及び新規特別事業など各種事業の実施により経費（減価償却額を含む）が増加する見込みである。平成30年度特別事業費申請案件については厳しく査定し、経常的な経費についても見直し・削減を強力に実施する。既存事業のスクラップ・アンド・ビルドを推進するとともに、アクションプランに織り込まれていない投資は極力抑え、不採算事業項目については縮小・廃止を検討し、収支改善を図ることを平成30年度の予算編成方針とした。

### 平成30年度の収支状況

#### 1. 事業活動収支予算書について（別表1）

##### （1）教育活動収支について

###### 【収入】

- ① 収入の柱である学生生徒等納付金は、44億4千8百万円となる見込みである。
- ② 手数料は、入学検定料を主として1億2千4百万円を見込んでいる。
- ③ 大学及び両附属高等学校並びに柏中学校の経常費補助金は9億3千2百万円を見込んでいる。
- ④ 雑収入は、退職金団体からの交付金1億1千7百万円と併せて1億7千6百万円を見込んでいる。

###### 【支出】

- ① 人件費は、大学および附属高校の兼務教員増加、職員の増加等により30億2千万円となる見込みである。
- ② 教育研究経費は、施設設備の維持管理、ICT環境の充実、情報センター業務および図書館業務のアウトソーシングほか特別事業費および減価償却額などにより、20億8千4百万円を計上している。
- ③ 管理経費は、教育研究経費と同様に施設設備の維持管理費と事務システム関連経費および減価償却額などにより、5億6千3百万円を計上している。

これにより、教育活動による収支差額は6千2百万円（収入超過）となる見込みである。

##### （2）教育活動外収支、経常収支について

資金運用による受取利息配当金収入が1億4千6百万円、借入金利息の支払額が1千9百万円となり、経常収支における差額は1億9千9百万円（収入超過）となる見込み。

##### （3）特別収支について

有価証券の売却差額として7千9百万円を見込んでいる。その他の特別収入は、主に施設設備に対する助成金を3千8百万円見込んでおり、特別収支の差額は1億1千7百万円となる見込み。

これらにより、基本金組入前当年度収支差額は3億1千6百万円を見込んでいる。当年度の基本金組入額は、施設・設備の整備及び教具・器具・備品の取得及び借入金返済などにより5億5千9百万円を計上している。この結果、当年度収支差額は2億4千3百万円の支出超過となる見込みである。

#### 2. 資金収支予算書について（別表2）

収入の部は、学生生徒等納付金収入、資産運用収入、退職金団体交付金を含む雑収入などにより、当年度収入額は77億4千9百万円となり、前年度繰越支払資金28億4千8百万円と合わせて収入額合計は105億9千7百万円となる見込みである。

支出の部は、人件費支出、教育研究経費・管理経費支出、借入金等返済支出、施設・設備関係支出等により、当年度支出額は77億7千1百万円となり、翌年度繰越支払資金は28億2千6百万円となる見込みである。

別表1 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

		平成30年度	平成29年度	
科 目		金 額	金 額	
教育活動収支	事業活動 収入	学生生徒等納付金	4,448	4,050
		手数料	124	144
		寄付金	48	132
		経常費等補助金	932	932
		付随事業収入	9	9
		雑収入	176	238
		教育活動収入計	5,737	5,506
事業活動 支出	科 目	人件費	3,020	3,017
		教育研究経費	2,084	1,954
		管理経費	563	558
		徴収不能額等	8	7
		教育活動支出計	5,676	5,536
		教育活動収支差額	62	△30
		教育活動外収支	事業活動 収入	受取利息・配当金
その他の教育活動外収入	10			5
教育活動外収入計	156			209
科 目	金 額			金 額
事業活動 支出	借入金等利息		19	21
	その他の教育活動外支出		-	3
	教育活動外支出計		19	23
教育活動外収支差額	137	186		
経常収支差額	199	155		
特別収支	事業活動 収入	資産売却差額	79	138
		その他の特別収入	38	39
		特別収入計	117	177
		科 目	金 額	金 額
	事業活動 支出	資産処分差額	-	14
		その他の特別支出	-	-
		特別支出計	-	14
特別収支差額	117	163		
基本金組入前当年度収支差額	316	318		
基本金組入額合計	△559	△495		
当年度収支差額	△243	△176		
前年度繰越収支差額	△3,031	△2,787		
翌年度繰越収支差額	△3,274	△2,963		
(参考)				
事業活動収入計	6,010	5,892		
事業活動支出計	5,694	5,574		

別表2 資金収支計算書

(単位：百万円)

科 目	平成30年度	平成29年度
収入の部		
学生生徒等納付金収入	4,448	4,050
手数料収入	124	144
寄付金収入	48	133
補助金収入	970	963
資産売却収入	1,724	1,878
付随事業収入	19	14
受取利息・配当金収入	146	204
雑収入	176	238
借入金等収入	2	1,002
前受金収入	1,036	966
その他の収入	345	517
資金収入調整勘定	△1,289	△1,224
当年度資金収入合計	7,749	8,885
前年度繰越支払資金	2,848	2,696
収入の部合計	10,597	11,581
支出の部		
人件費支出	3,014	3,038
教育研究経費支出	1,451	1,307
管理経費支出	528	527
借入金等利息支出	19	21
借入金等返済支出	306	250
施設関係支出	161	1,175
設備関係支出	276	159
資産運用支出	1,883	2,554
その他の支出	361	203
資金支出調整勘定	△227	△373
当年度資金支出合計	7,771	8,861
翌年度繰越支払資金	2,826	2,700
支出の部合計	10,597	11,581

注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

氏 名	役 職	学年(お子様の所属)
宮 脇 正 裕	会 長	4 年
瀧 田 浩	副会長 (学務局長)	
中 澤 稔	副会長	3 年
鈴 木 千 晶	委 員	4 年
安 達 香 里	委 員	4 年
白 根 真 弓	委 員 (会計監査)	4 年
加 藤 典 子	委 員 (企画)	3 年
田 中 清 美	委 員 (企画・会計監査)	3 年
田 中 み か	委 員 (企画)	3 年

氏 名	役 職	学年(お子様の所属)
小 柴 有 佳	委 員 (広報)	2 年
新 郷 尚 美	委 員 (広報)	2 年
由 川 志 織	委 員 (広報・会計)	2 年
工 藤 恵 美	委 員 (広報)	2 年
安 井 勝 代	委 員	1 年
千 澤 美 千 代	委 員	1 年
細 谷 文 雄	委 員	1 年
渡 邊 幹 雄	委 員	1 年

平成三十年役員

編集後記

関東甲信地方は観測史上最も早い梅雨明けでした。その後の西日本豪雨。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。父母会会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

定期総会には、数多くの父母の皆様にご出席いただきまして、心から御礼申し上げます。

総会前には今年度四月に国際政治経済学部誕生した新学科「国際経営学科」の准教授小久保欣哉先生による講演が行われました。

「なぜ、いま経営学なのか」都心で学ぶ「経営実務」として、経営学の必要性、本学科の特徴について、お話しいただきました。

社会、環境の変化が大きく、不確実性が高くなっている時代には、世界に通用する国際感覚を身に付けた、経営人材が求められていると、理解する事ができました。

次いで、総会が行われ父母会は、宮脇会長以下新体制も整い新たな船出となりました。

大学の更なる発展が多いに期待させる中、父母会は大学と共に学生一人一人のために活動して参ります。

ご父母の皆様、どうかご支援ご協力をお願い申し上げます。